

第六十二回句会 俳句

【高点句】

- ☆限界集落聖樹に光仄暗く 〈緑〉  
☆何もかも忘れたき日の日向ぼこ 〈千恵〉  
☆自転車の灯の細々と冬至かな 〈撫子〉  
☆病棟の白壁染める聖樹の灯 〈剛至〉

【各自一句】

- ・冬木道一人散歩の影長く 〈雄記〉  
・クリスマス小さきころにもどる夜 〈哲雄〉  
・聖夜劇今年は誰ぞガブリエル 〈撫子〉  
・御朱印を受けて社の冬ぬくし 〈一馬〉  
・クリスマスショートケーキを二つ買う 〈剛至〉  
・吾子ら皆巣立ちて二人降誕祭 〈徳人〉  
・枝垂れの先に赤い実ひとつ冬の空 〈緑〉  
・笑み残し眠る子メリークリスマス 〈千恵〉  
・風なくもなお紅葉散る苔の上 〈伸子〉  
・去り際の一言じんと年の暮 〈眞澄〉  
・ココア淹れサンタの労に感謝の子 〈郁代〉  
・クリスマス君待つ改札口の外 〈莫院〉  
・咳く母の背ナの小さくなりにつけり 〈明美〉  
・あの窓の飾り今年も聖夜来る 〈安津子〉  
・想い出は枯葉となりぬ並木道 〈童心〉

\*以上、45句(3句ずつ15名)より、選句は16名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句(今回は第2位が同点で3句)

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載)